

## 第5回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成30年9月25日（火） 14：01～16：07

場 所：浜田市役所北分庁舎2階会議室1

### 議事

- 1 会長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

#### 1 会長あいさつ

事務局

ただ今より、本年度第5回の浜田市立学校統合計画審議会を開催させていただきます。

現時点で8人の出席であるため、半数の7人以上ということでこの会は成立していることを報告させていただきます。

会 長

連休明けの出席しにくい中、お出かけいただきありがとうございます。今、事務局から話があった様に、4名の欠席とバイパスの事故により2名の委員が遅れるということではあるが、開始時間となっているので進めさせていただきます。

第4回のところで色々と協議いただいたが、中々結論を出すことが難しく、今回また再度詰めていってもらいたいと思っているのでよろしく願います。

#### 2 協議事項

会 長

前回の審議会において、第四中学校については統合と建て替えの両論併記という内容であったが、この2つの意見を同等とする両論併記とするのか、どちらかを主としたうえで両論併記とするのか、両論併記の内容について、もう少し協議が必要であると思う。委員方からさらにご意見をいただきたい。

この協議に先立ち、事務局から追加説明があるということなので願います。

事務局

レジュメの2協議事項(1)協議対象校の、オ 第二中学校についてというところに、8月14日済と書いてあるが、9月14日に訂正をお願いします。申し訳ない。

事務局

この審議会の中で、美川小学校については建て替えという方針をいただき、先般、9月14日に第四中学校をどうするかという協議の

中で小中一貫校の話が出たが、小中一貫校にするのかしないのかというところで意見が半分に分かれたという状況である。小中一貫校について、若干事務局から補足説明をさせていただく。

審議会の検討結果を受けて、教育委員会内部で協議を行った。実を言うと、浜田市においては小中一貫校という言葉は使っていないが、小中連携教育ということには以前から取り組んでいる。これは各中学校区でそれぞれ取組をしていただき、中学校とその中学校区にある小学校の中で連携して取り組む内容のものについては一緒に取り組むというものである。教科は中々難しいため、総合学習的などころあるいは学校生活のことについては、中学校区ごとに小中連携の取組を行っているという状況がある。

浜田市としてはこういったことを進めているため、いわゆる小学校と中学校を一緒にした、同じ敷地内にあるという形の小中一貫校についての考えは今のところ持っていない状況である。

前回説明した小中一貫校について、おさらいになるがもう少し説明させていただく。

元々、小中一貫校には一貫教育を行う目的がある。一番言われているのが、小学校6年間と中学校3年間を一緒にすることで、9年間を通して独自の教育ができるということが1つの大きな目的である。例えば英語に関して言うと、今は小学校で英語が教科となったが、もっと早い段階で英語に取り組むということが独自でできる。

それから小学校から中学校に上がる時に、中々環境に慣れないということで不登校になったり、引きこもったりということが時々ある。そういった「中一ギャップ」の解消になるということを目的にして小中一貫教育を進められている。大きくはこの2つが小中一貫校のメリットと言われている。

当然、一方でデメリットもあり、9年間という長いスパンであるため人間関係が固定化されやすい。特に人数が少ないとクラス替えもできずに9年間を同じメンバーで過ごすことになる。それから小学校は高学年となる5、6年生でリーダーシップを発揮するということがあるが、小中一貫校にすると最高学年が中学3年生ということになり、小学校高学年がリーダーシップを発揮する場があまり期待できないといったことが挙げられる。

他にも色々なメリットやデメリットがあるが、小中一貫校が制度化されたのが2年前の2016年である。それまでも小中一貫教育の

取組はあったが、きちんと整理されて制度化されたのが 2016 年ということで、制度化されてまだ 2 年くらいであるため、全国で徐々  
に取組をされているところがあるが、中々そのメリットやデメリットをどう克服したら良いかまだ見えないところが多いという状況  
である。

特に今回、議題に挙がっている美川小学校と第四中学校である  
が、今、同じ敷地内にあって、ほぼ小中一貫校の様な位置関係にあ  
る。ただ、教育課程はそれぞれ独自に行っているため、小中一貫校  
ではない。人数が少ない学年で 5 人、多い学年でも 15 人くらいで  
あり、1 学年 10 人前後の様な状況であるため、どうしても 9 年間全  
く同じメンバーということになる。

もっと細かいことを言うと、小中一貫校におられる児童、生徒が  
転校した時には厳しいことがある。教育課程を独自でやっているた  
め、他の小学校や中学校に転校すると、今まで習ってきたことが活  
かせない。逆に、外から転入されると同じ様なことが起こるとい  
うこともある。

そういったことも踏まえていただいたうえで、本当に小中一貫校  
を美川小学校と第四中学校で取り組むことが良いのかどうか、検討  
いただければと思う。もう少しきちんとした資料があれば良いが、  
小中一貫校について書面化した良いものがなく、色々調べてみる  
とそういったことを例に挙げているという状況であった。

そういったメリットやデメリットも含めて、検討していただくこ  
とが良いのではと思う。あくまでも建物を一緒にするからと言っ  
て、それが小中一貫校となるわけではない。いわゆる 9 年間を通し  
た取組をすることが本当に必要なのか、あるいは中一ギャップがひ  
どいからなくすために必要であるといった、何のために小中一貫校  
にするのかというところを念頭に置きながら、検討いただければと  
思う。

会 長

今、事務局から教育委員会としての考えをお話しいただいた。浜  
田市においては小中一貫校の方向性は持っていないという話であ  
った。一貫教育のメリット、デメリットについても事例を挙げてお  
話いただいたところであるが、その様なことも踏まえながら前段で  
申し上げた様に、第四中学校について統合と建て替えの両論併記と  
いうことで前回まとめをしたわけであるが、この 2 つを同等とする  
両論併記なのか、またどちらかを主とした両論併記としたほうかい  
いのではないかという意見もあるわけで、この両論併記の内容につ

委員

いてさらにご協議いただきたいと思う。

前回もこの問題について色々と協議いただいている経緯があるが、2つの意見を同等とする両論併記について少しどうかという感じがするので、再度協議したい。

前回同様に各委員からお考えをいただきたいと思う。

前回と論点、主張の立場は変わらないが、少し資料を持ってきたのでそれに基づいてお話ししたいと思う。文部科学省が出しているホームページのコピーで、学校規模によるメリットとデメリットについてである。例えば小規模校で教育の質が下がるという意見であるとか、小規模校だからこそ地域とのつながりがあるというメリットがあるという意見があったと思う。

文部科学省が、お配りした資料にあるように全国の市町村、各自治体のメリットとデメリットをまとめたものに、前回の議論で出たメリットとデメリットが、だいぶ整理して記載されている。

今回は統合されても大規模化はできないが、資料にある大規模化というのは、こういったメリットの中でどこを一番重視するのか、デメリットの中で何を重視するのかということで、1つの論点だけでなく複数の論点の中で、学ぶ子どもにとってどれだけメリットが大きいのか、それからデメリットをどれだけ少なくできるのかという議論ができればと思う。

それからもう1つの資料は、論文であるためお配りする必要はないかと思うが、広島県の小学校の統廃合をした後の調査研究である。皆さんが懸念されていたのが、美川地区という地域のつながりが強いところにある第四中学校が第三中学校に統合された場合に、今ある地域と子どもたちのつながりがなくなってしまうのではないかと、それにより地域のコミュニティの力が弱まってしまうのではないかということであったと思う。

この論文は違う地域のことであるため、これが100パーセント当てはまるということではないと思うが、小学校の統廃合後、地域との関連がどう変化したのかということを検討しているものである。

統廃合の形を3つに分類しており、行事などが引き継がれず新しいところのやり方に全部合わせてしまうという吸収型と、元のものも残しつつ新しいところと取組を維持させて一緒にするという中間型、それから全く2つの学校をどちらも廃校にして、新しい場所に新規に造る対等型というのがある。

今回はおそらく吸収型、もしくはやり方によっては中間型になる

と思う。吸収型で元の取組や地域とのつながりをあまり維持しない場合であると、やはり地域とのつながりは弱くなってしまいが、中間型で、元の地域とつながって学校独自の取組を活かしながら統合するという形であれば、その地域でのつながりはそれほど大きく変わらないと思う。

第三中学校に統合されてしまうと、地域のつながりが全くなくなるという様な懸念があると思うが、統合のやり方によると思う。もし統合するのであれば、美川地域で今まで培ってきた第四中学校との関わり方、それから校区も拡大されることになると思うので、旧第三中学校区だけではなく第四中学校区も含めた新しい地域との活動ということを考えて統合してほしいという様な形で、地域とのつながりに配慮した統合のあり方もあるのではと思う。

もちろん統合によるデメリットもある。前回は委員方から意見があった様に、学校がないということで中学生の子どもを持つ若い世代の移住が少なくなるであろうということは、他のデータからも予想される。元々住んでいる人が、中学校がないから別の地域に移住しようということはないと思うが、初めから学校に近いところに住もうという人が新規で移住することは少なくなっていく。

それから小さい学校から大きい学校に入った場合に、小さい学校から移った人たちに非常に心理的な負担がある。

今回は持って来ていないが、北海道の統廃合された中学校の生徒を対象にした調査というもので、女子学生の方が非常に負担が大きいというデータがある。そういう部分もあるので、もし統廃合するのであれば、ただ学区を広げた、一緒になってくださいということだけでなく、移る子どもたちの心のケアを十分に行う必要もあると思う。現状では、小規模化のデメリットとして行事とか部活動については、すでに学区を超えて通っている子どもたちがいるということで、実質的なデメリットを感じているということがあると思う。

教育の質や教員の数、行事や組織的な対応等にも関わってくるので私は統合をする場合に、地域とのつながりであるとか、元々の学校で行っていたことに十分配慮するのであれば統合しても良いと思う。

会 長

ありがとうございました。今、委員から資料を提示していただき、小規模化と大規模化を比較したメリットとデメリットについてのお話をいただいたところである。この資料の中身もご覧いただきながら、進めていきたいと思う。

委員

先ほど事務局から小中一貫の説明、それから他の状況であるとか現状の説明があった。小中連携というのは私も以前に経験がある。連携と言っても中々できない。お互いに入り込めないところがあって非常に難しいと思った。小中一貫で、9年間を通したカリキュラムの編成とか、独自のことをやっていこうとする場合には、最初は職員にも負担がかかるということがある。

先ほど、中一ギャップという様な問題があったが、私は却ってギャップがあった方が良いのではという気がしている。困っていないのに困るだろうからと、子どもの前からとにかくハードルを取り去ってしまい、小中一貫にすれば大丈夫だろうと大人が考えてやるわけである。子どもにとっては、成長の区切りがあって小学校5、6年生で自分は高学年ということリーダーシップを持ってやる。その様に小学校では育てていくということをするのだが、中学校に入学したとたんに赤ちゃん扱いになる。その辺のギャップがあると嫌がるが、そういったことを乗り越えていく、心を鍛えていくことも必要であると思う。ギャップの解消というのは現在の小中連携でもできる様な気がするし、特に取り立てて小中一貫校を造る必然的理由はないと思う。

したがって、これから人数が非常に少なくなるという現状であれば、統合も止むを得ないと私は思う。

会長  
委員

ありがとうございます。

前回終わってからずいぶんと考えた。やはり第四中学校は統合した方が良いと思う。何と言っても人数が少ないことと、統合しても何らメリットがないということを知ると、生徒の立場になっても少人数ということは生徒のために良くないと思う。大きなところへ入ってみんなで部活でも何でもできるという方が良いと思う。

確かに地域は生徒がいなくなると寂しい面があるが、生徒のことを考えたら統合して大規模校に行き、そこで大人数で勉強した方が、私は良いと思う。第四中学校は廃校にして統合する方が良いと思う。

会長  
委員

ありがとうございました。今、意見をいただいた委員も第四中学校は統合した方が良いということであった。

前回欠席していたため、話の内容が辻褄の合わないことを言うかもしれない。私はこの検討の内容が、小学校の時と今回と少しばかり違うと感じている。この審議会のスタートの考え方というのは、中学校と小学校の建物の老朽化問題であった。建て替えるか、廃校

にするか、老朽化問題を中心にずっと検討されてきた。今、こうして第四中学校の協議の段階に入ると、大規模校と小規模校、教育のメリットとデメリットこういう検討に入ってきた。浜田市として、教育内容を中心に統廃合や設置を検討するのか。建物の老朽化問題だけで決定しない方が良いという考え方に少し変わってきている。そうした時にどちらに重きを置くのかということになってくる。その辺の考え方が私には少し理解できないところがある。どちらのウェイトを高く考えておられるのか。

確かに子どもたちのことを考えれば、教育のメリットを考えた方が良いということが言える。しかしながら、同じエリア内に美川小学校と第四中学校があり、美川小学校の児童数も第四中学校の生徒数も今後人数的にあまり変わらない。2、30億円をかけて美川小学校だけを建て替えることはもったいない気がする。

せつかく今、小中連携や小中一貫の話が出ている。私は教育者でないためどちらが良いのかつぶさに理解できないが、教育上最もメリットがあつて、しかも可能性のある方式を検討されれば、私は建物からすれば美川小学校と第四中学校は同じ建物で少し規模を拡大したものを造れば、非常に効率が良いのではないかと思う。

近隣中学校の距離的な問題にしても、第三中学校と第四中学校でそんなに差のない位置に建っている。どちらに分かれても大きな問題は起きるかどうかわからないが、先ほど他の委員が言われた様に地域の問題が少し残るかと思う。

要するに私の結論は、建て替えた方が良い、統合した方が良いということの判断がつけにくいというのが正直なところである。もう少し皆さんの意見を聞かせてもらい最終判断させていただきたい。

ありがとうございました。

私も正直なところ、美川地区の人にとって、子どもたちにとって何が一番良い方法なのか判断しかねるが、先ほどあった小中一貫校のデメリットなどのことを聞くと、一緒ではない方が良いのかと思っている。部活動を作っても、結局、第四中学校から第三中学校へ行くのであれば何だかわけの分からないことになってしまうのかと思う。まだ判断ができないということで、申し訳ない。

ありがとうございました。

私もはっきりとはわからないが、美川地区にしても段々と人口が減り、第三中学校区にしても段々と減ってくるという問題で、やはり小規模より中規模くらいの学校で勉強する方が良いのではないか。

会 長  
委 員

会 長  
委 員

第四中学校よりも第三中学校の人数の方が多く、統合すれば今よりも多くなる。部活動にしてもクラブ活動にしても人数の多いところの方がある程度競争ができ、競争させるということも成長の一環で良いと思うため、私は統合した方が良いのではないかという意見である。

会 長  
委 員

ありがとうございます。

私も色々考えた。美川地区も少人数であるからこそ団結力は素晴らしいものがあり、幼稚園から行っている子どもは12年間ずっと一緒に友だちもいる。美川地区から中学校がなくなることはすごく寂しいと思うが、子どものことを考えた時に、自分の子どもには子ども同士の競争心や向上心を育てたいということがあり、そうなった場合少人数よりも人数の多いところに行き、揉まれた方が良いのではという思いがある。今、第四中学校は部活動に関して、教育に関して小規模であるためできないことが多々あると思う。第三中学校へ編入して子ども同士の向上心を高めてほしいと思う。

会 長  
委 員  
会 長  
委 員

統合が望ましいということか。

そうである。

ありがとうございました。

私も前回欠席してしまい前回の内容が分からないが、第四中学校をどうするのかという話について、美川小学校の協議の時に話をしたと思うが、基本的に小学校はある程度小規模でも地域とのつながりが密になり、その中で学ぶことはたくさんあると思う。もちろん中学校も地域とのつながりの中で学ぶこともたくさんあると思うが、私自身の考え方としては、基本的には中学校はあまり小規模にならない方が良いのではと思う。

理由として、子どもたちの選択肢を広げてあげたいということがある。それは人間関係ももちろんであるが、教育や勉強以外のところでもあるが、部活動について、やはり小規模であるとあまりたくさんの部活動やクラブ活動がないという様なことになりかねない。団体スポーツであれば、チームが組めないからということでもなくなってしまったり、個人スポーツになってしまったりという様なことも懸念されるわけである。そういった中で、ある程度団体スポーツもできたり個人のスポーツもできたり、文化系の活動なども可能な環境づくりは小規模では中々難しいと思う。

また人間関係であるが、これについても個人的な考えで申し訳ないが、私が今住んでいる地域は三隅町岡見である。ずいぶん前に岡



会 長  
委 員

見中学校がなくなり、新しい三隅中学校ができて、旧三隅中学校と岡見中学校が一緒になり新しくなった。その時にちょうど私の子どもが中学3年生であった。あまり活発な子どもではなく、人見知りが多いというか、気の合う友だちがいなかった。それが新しい三隅中学校に行き、気の合う友だちができた。岡見地域というのは岡見保育所から岡見小学校で、先ほども言った様に保育所から小学校という、7、8年間一緒に生活するわけである。アパートなどもなく、新しい人の出入りがないため、同じ人間で8、9年間一緒にいるという様な環境の中で、人間関係を構築できる子どもは良いが、構築できない子どもというのは、やはり中々気持ち的に難しかったりということがあり、わが子については中学3年生になって少し肩の力が抜けたかなという様なこともあった。

そういうことだけを求めているわけではないが、やはり選択肢とか人間関係の広がりなど、色々なことを考えて中学校というものはあまり小規模でない方が良いのではという思いから、第四中学校の今後の生徒の増が見込めないということであれば、新しいところへ行き、切磋琢磨することが良いのではと思う。

ありがとうございました。

私も前回を受けて色々考えた。中々簡単に答えが出る問題ではないと思った。例えば財源の問題であったり、先ほどもあった地域の問題であったり、色々なことを考えれば考えるほど、これからは人口が増えないことは分かっているので、そういうことの中で浜田市全体として、学校のあり方を考えていかなければならないターニングポイントなのかなと思う。

私は旭自治区に住んでいる。旭自治区の小学校は統合したが中学校はそのまま残っている。小学校は統合したことにより児童数が増えているため、昔はできなくなっていたことが人数が増えたことよってできることも増えてきて、段々そういったことが回復してきたことが目に見えてきたり、複式学級も途中あった様に記憶しているが、そこも解消されて1学級12人前後の学級が多いが、ある程度の人数の中で過ごせている。統合して人数が増えたことで、できなくなったことが新たにできる様になったりとか、あきらめてしまったことができる様になったりしたことを振り返ると、目に見えて効果が表れてくるのだと思う。

旭の場合は統合する前から交流を一生懸命されていた。今も旭町全体で、総合学習に色々な地域に出かけてくださったりしており、

その辺りで、地域とのつながりを一生懸命作ろうとしてくださっているのだなと感じたところである。

一方で、小学校がなくなってしまった地域に関しては、やはり子どもの声が聞こえなくなったので寂しいという声も聞かれるし、学校が近いところに住みたいと引っ越された方もいるのが現状である。先ほど委員からいただいた資料を見て本当にその通りだと思っていた。

反対に中学校であるが、中学校はどんどん生徒数が減っている状況であり、来年が谷になる年で、以降は横ばいとなりそうである。私は旭中学校出身であるが、おそらくその頃と比べると半分くらいの人数になっている。委員会活動の人数が足りず、委員会をくっつけて1つにして数を減らすしかないとか、部活動が減っていく様子を今まで見てきたため、やはり人数が少ないということのできることでできなくなることを実感してきた世代である。そこを踏まえると、現状のままいくのはしんどいところがあるかと思う。

旭自治区も部活動が選べないということで、数人ほど校区外に行っている子どもがいる。それを思うと、結局大きな学校へ行って、切磋琢磨しながらということもあり得るかと思った。

それから、やはり付き合う年数が長いため、人間関係が固定化してしまい、本来の自分が出せないしんどさを訴える子どもがいるのも事実である。小さい時から同じメンバーであるので、やはり競争意識が薄いと感じている。そういったことも踏まえると、中学生になったら大きな中学校に行っても心機一転頑張ろうかなというのも悪くないと思う。

## 委員

私も個人的には統合してある程度の規模にした方が良いのではと思う。先ほど他の委員からあった様に、以前旭小学校が統合した。本当は、統合した当初は非常に心配する部分があったが、年が経つにつれて学校が充実していると思うし、やはり競争力が非常に高まっていると感じている。

私もたまたま旭小学校の評議員をさせていただいているので、いつも色々な内容のことをお聞きしたり先生方からも話を受けていますが、昔のイメージは全くない。非常に活発で、自分の考えていることを強く主張できる子どもに成長してきたなと感じているところである。

中学校ということであるので、やはり子どもたちに選択肢を与えてやらなければならないし、何より競争力が大事な部分があるので

会 長

個人的には私も統合した方が良いと思う。

ありがとうございました。一通り、委員方から意見をいただいたところである。

美川地区というのは浜田市全体の中でも非常に地域との連携が良く、親と子ども、子どもと地域の関係が強い地区であると感じているところであるが、中学校となると、自分の考えを持ち、競争ができる子どもに育ててほしいということもあるため、その様なことも踏まえて全体協議をしていただき、どちらかにするか、あるいは統合と建て替えの両論併記ということもあるかもしれないが、どちらかに少しウェイトを置いた方が良いのではと思っている。委員からの資料も参考にしながら願います。

委 員

少し補足する。大規模化については今回統合したからといって大規模化には当てはまらない。適正な人数の範囲になるため、この資料の大規模化というのはもっと人数の多いマンモス校になった場合に出てくる論点である。今回は現状が小規模であることでのメリットとデメリットということだけ参考にしていただければと思う。

先ほど委員が言われた固定的な人間関係のところ、ずっと固定的な人間関係でいく時に、例えばいじめ等が生じた場合、選択肢がないことによって逃げ場がなくなってしまうことがある。

都市部であれば私立の学校であるとか、クラスを変えてもらうというリスクマネジメントができるが、固定化できることで密度の濃い、地域と密着した人間関係が構築されるというメリットもあるが、子どものリスクとしては、いじめであるとか人間関係のトラブルが何かあった時に逃げ場がないというデメリットがあるのかと思う。

併記にするかどちらかにするかであるが、教育委員会では併記ではなくどちらかにしてほしいということか。

事務局

最終的に意見が半々に分かれ、両論併記でなければ答えが出ないということであれば、それも致し方ないという話をさせていただいたと思う。気持ちとしてはどちらかに決めてほしい。前回の最後ではっきりしないところがあったので、今回改めてご審議いただいたということである。

委 員

私も皆さんの意見に共感するが、実は金城中学校がこの度中学校の野球の大会に出場する。金城中学校は生徒が80数人いるが、それですら1チーム出来ない。混成チームでようやく1チーム作っている。中には野球でなくサッカーがしたいという生徒もいるだろう

し、部活動のことで色々と話が出たが、本当に自分たちがやりたい部活動すら構成することができない。小学校と違って中学校になると、ある程度専門的に、本格的に打ち込む部活動もあると思う。それすら思い切ってできないというのは非常にかわいそうという気もする。

前々回まで小学校の問題がずいぶんあったが、やはり子どもたちが小さい時期はある程度の規模の問題ではなく、環境の問題が重要視されて、低学年の場合は自然と打ち解けて情操教育ができる様なということを考えれば、規模の問題ではない気がする。

中学校になると勉強にしてもスポーツにしても専門的に深くなり、内容も少し変わってくるので、ただ建物の老朽化だけの視点で判断しない方が良い気がする。中学校も老朽化の問題がなくても、あまりにも小規模になってくると考えなければならない時期が来るのかもしれない。通学の問題についても小学生と全く違うので、ある程度対応できるのではないか。

結論であるが、私はやはり統合した方が良いと思う。

会 長  
委 員

ありがとうございました。他にあるか。

前回、審議会では財源がないからとか、それは無理であるとか言わない様にしようということがあった。財源は市長部局が考えることで、我々がすることではない。やはり人数や教育効果、あるいは通学距離など色々考えて第四中学校については統合が良いだろうと、私は思う。

変な話をするが、学校に勤める人は小規模校は困る。1人出張すると、あのクラスをどうしようかと思う。遊ばせておくわけにはいかない。そういったことがある。大きな学校で、職員が多い方が余裕ができ、やはり非常に助かる。

それから、部活動も小規模校で色々指導されるが、いわゆる経験者が少ない。「あなたはバレーボールを担当してください。」と言われて、バレーボールをやったことがない様な人が担当しなければならない状況がある。したがって指導ができる教員が多い教育環境が良いと思う。

委 員

先生からしても、規模の大きな学校の方が色々な特技を持っておられる先生が集まれるが、小規模になると少なくなる。だから部活動を作りたいくても作れないということを、第四中学校で聞いたことがある。ある程度大きな方が良いのではと感じる。

会 長

それぞれ委員方から意見をいただいたところである。

委員

前回の議論であれば両論併記という状況であったが、今日の議論状況は、統合しても良いのではないかという意見が非常に多かったと思うので、そういった結論でも良いのではと思う。

ただその前に、第四中学校は美川地区という地域と非常に強いつながりを持って、これまで地域活動に積極的に取り組んできた経緯があると思う。そこを十分配慮して、第三中学校に統合された際にも、第四中学校の取組をできるだけ活かす様な方向で、先ほど委員が言われた旭地区の小学校の統合の様に、統合される地域の人々や子どもたちに配慮する様な形での統合を目指してほしいという形で、統合というまとめにしても良いかと思う。今日の議論の状況では、そういったまとめ方もありかと思う。

会長

ありがとうございました。今も委員から話があった様に、今日の審議会は全体的には統合の意見の方が強いと思う。冒頭申した様に、前回のまとめでは、第四中学校については統合と建て替えの両論併記という内容で一応締めにした。今日は再度この件について協議いただいて、2つの意見を同等とする両論でこのままいくのかどうかということで意見をいただいたが、統合の方がウェイトが高いと感じた。建て替えもきれいに落とすということではなく、前回協議いただいた経緯があるので、残しても良いと思うが、ただどちらが主とした時にはやはり統合の方が強いのではないかと思うので、その様な併記の形で良いか。最終的には答申書を作成するのでその辺りを確認しておかなければならない。

事務局

統合のみの方向なのか、統合を主とした建て替えも含めた両論併記という形にするのか、どちらか。

会長

あくまでも併記でいくのかどうか。今日の雰囲気では圧倒的に統合が多かった。その辺りどちらかを決めておかないと、これから色々な面が出てくると思う。

委員

両論併記だとやはり結論が拡散すると思うのと、今回新しく出てきた条件として、一貫型のデメリットというものがある。前回は一貫型というものが良く分からず、ポジティブなイメージばかりがあった中での両論併記で一貫型兼地域の福祉や、子どもたちと地域の人が交流する場になればという様なことで両論併記という思いが強かったと思う。

しかし今回、一貫型を推薦されていた委員方も、一貫型のデメリットであるとか総合的に判断された上で統合でも良いのではないかという意見にされているということなので、今の状況で併記とい

委 員

う様なまとめにすることは少し難しいかと思う。

生徒数が現状平成 30 年度で 37 人である。10 年後のシミュレーションはどうなっているか。

委 員

36 人では。

事務局

平成 34 年度が 1 番少なく、27 人である。

委 員

20 億円をかけて、10 年後にまた統合の話が出ることになるのはいかがでしょうか。非常に難しい。

会 長

ちょうど 1 時間が経過した。先ほど委員から助け船を出していただいたので、今日の皆さんの意見について、両論併記なしに統合という形に絞ってまとめをさせていただくということで良いか。

各委員

全会一致で承認

会 長

ありがとうございます。それでは第四中学校については統合ということでまとめさせていただく。よろしく願います。

第四中学校については結論をいただいたので、次に進めさせていただく。これまで 4 回の協議の中で、6 校のまとめの最終的な確認をする。

まず雲雀丘小学校について、原井小学校へ統合するという内容であったと思う。この内容で良いか、再度確認する。

各委員

全会一致で承認

委 員

統合という文言が出るわけであるがその時期はいつか。老朽校舎で非常に危ないということであれば、急がないといけないということがあるが、雲雀丘小学校については、人数の減少があるにしても平成 30 年で 119 人である。20 人減っても 90 人くらいである。ということは、1 校として存続しても大丈夫な人数である。校舎が古いということでも統合ということになったのだが、時期を考えなければならぬ。人数の多い時に統合かということ、そういうわけにはいかない。将来的に、例えば複式学級ができれば統合するとか、そういった目安を決めておかないと、統合したが人数が増えたということにならないか。

事務局

以前も話したが、住民票の人数でいけば通勤族の多い地区であるため間違いなく増える。今、子どもの数だけでいつが少なくなるとは言えない。住民票の数で言えばこれから増えてくる。いつが適切とは中々言えない。それこそ建物の老朽化によって、新設よりも統合が望ましいという形で進めるしかないと思っている。

今言われた時期であるが、人数から時期を定めることは難しいと思っている。

委員 10年先で増える推定である。そうなるとその間危険な建物の中で勉強させることになり、少し問題がある。

事務局 6歳未満児の人数は多いが、入学する人数は少ないということの繰り返しである。実際に100人超えていても、何人入ってくるかわからないのが現実である。どこかでここにしよう決めてしまうしかないと思う。ここで決めていただくと大変ありがたいが、そういうわけにもいかないと思うので、そういう方針が出たということで、今後住民の方や児童、保護者の方に説明する中で、最後に決定していかなければならないと思うが、それまでのところで教育委員会としては何年にということを示していかなければならないと思っている。それはまた別途協議をしていきたいと思っている。

委員 審議会としては統合という答申を出して、色々な条件がある。校舎の老朽化や地域との折衝もあるし、人数の問題もある。そういったことは最後に教育委員会で詰めて、進めていただけたらと思う。

委員 人数的なところは複式学級が発生した時にということも確かに大切と思う。そうなるのであれば、私はプラス改修という様な文言が付かないと、現状のままでずっとというのは無理があると思う。資料からも健全化はオールCである。

事務局 例えば3年後と決めたらうえて、話をする中で5年後になるということはあるかもしれない。極端な話、来年やるということは無理である。地域へ説明していく中では、最低3年必要かと思う。

会長 他に良いか。

委員 旭地区の場合は統合の時期が決まった時に、入学するときに初めから大きな学校に行った方が良くということ転校する子どもがおり、結局その入学生がいなくなってしまうということがあった。時期が決まればもしかすると途中で人数が減るという可能性もある。途中で統合させるのであれば、初めから大きな学校に入学させようとする方もおられるかもしれない。

会長 雲雀丘小学校については、原井小学校に統合という内容で確認いただいたところであるが、今、2人の委員から時期について意見があった。このことについては地元保護者会の中で提示して、説明をしてもらうということであろうと思う。それで良いか。

各委員 全会一致で承認

会長 ありがとうございました。

それでは2校目、美川小学校についてである。これも色々と地域重視の関係について協議いただいた。複合施設を踏まえて建て替え

るということでの内容であったと思う。再度確認させていただく。それで良いか。

各委員  
会 長 全会一致で承認  
ありがとうございました。

それから続いて小学校3校目、石見小学校についてである。現地付近での建て替えという内容でまとめさせていただいたが、このことについて何かあれば願います。

委 員 現地付近でというのは、地盤沈下の問題を解決できるという条件の下にということか。

会 長 協議の時も地盤沈下の関係の意見がたくさん出たがいかがか。  
事務局 現地付近というのが、浜田市野球場や浜田市陸上競技場側の石垣の部分の方が多少沈下があるというくらいのもので、学校本体には地盤沈下の影響はない。そうすると今のところで現地建て替えするよりは、どこか他のところを探した方が安全ということも含めて、現地付近という意味であったかと思う。

事務局 場所的にはあの辺が良いという話であった。  
委 員 検討の中では、専門家に付近に良い場所を探してもらえば良いという話であったと思う。

事務局 答申としては現地付近でという内容であった。どうしても場所がないということになった時には、現地という可能性もあるかもしれない。

委 員 グラウンドの兼用はできないのか。今の浜田東公園、市の陸上競技場の移転の計画はあるか。

事務局 今、スポーツ施設も計画を作成中である。これをどう動かすかはまだ検討中である。

委 員 学校のグラウンドに地盤沈下があるというのは、グラウンドの一部が沈下しているということか。建物は大丈夫か。

事務局 校庭のトラックには全く影響はない。トラックから浜田市陸上競技場や浜田市野球場側に幅が30メートルある。

委 員 浜田市陸上競技場と浜田市野球場に近い方が地盤沈下する。浜田市野球場も地盤沈下する、浜田市陸上競技場も沈下するということで、あの辺一帯が地盤沈下している。そのため、浜田市陸上競技場は中々公認申請が取れない。

委 員 石見小学校の校庭というのは、地盤沈下しているところも含めたエリアで広さを確保しないとできないのか。それとも現状では地盤沈下していないエリアで校庭を造ってしまうというわけにはいか



	ないのか。
事務局	それは石垣から植栽のところを完全に取ってしまったとしても、トラックの広さは十分にある。
委員	それなら問題はないではないか。
委員	今校舎の建っている場所が、階段状の土地であるので、一部4階建てという様なところがあり、建てるのならあそこを全部削らないと良くない。しかも入り口がない。
事務局	現地建て替えるにしても、工事車両の進入路などを今後検討していかなければ、今、給食車両が入るのが精一杯の道路が1本しかなくトラックが入れない。トラックが入るところは民家が両側にあるため、石垣等を削って校庭側からトラックが入ることを考えていかないと、現地での工事が難しいと思っている。それか、裏の断崖山を長沢側から削ってでも道を造るという様な大掛かりなことをしない限りは、トラックが入りにくい場所である。
委員	しかもあそこに建てようとするのであれば、仮設校舎を建てなければならぬ。それに何億円とかかる。
委員	方法論はどうでも良いのではないか。建て替えるという方針について良いかどうかということをお話している。
会長	石見小学校については、現地付近での建て替えという内容でまとめさせていただいて良いか。
各委員会 会長	全会一致で承認 ありがとうございます。
	4校目である。松原小学校について、この協議の時にも色々意見が出たが、次期計画時に検討するという内容でまとめていただいたが、いかがか。
委員 事務局 会長	松原小学校は、校区についてはどうするのか。 校区は次の項目で少し協議する。 先ほど委員が言われた校区の件については、後の議題で出てくるその時に協議する。松原小学校については次期計画時に検討するというので、再度確認する。良いか。
各委員会 会長	全会一致で承認 ありがとうございます。
	それから第二中学校であるが、現地建て替えて承認をいただいたと思う。この件についても良いか。
各委員会 会長	全会一致で承認 今日まとめていただいた第四中学校については、統合ということ

で承認いただいている。

これまで6校について検討した。これから答申書の作成に入るが、よろしく願います。

それでは先ほど委員から話があった校区の関係であるが、ここで改めて小学校区の関係の話をさせていただく。

事務局 今、6校について協議いただいた。レジュメ裏の諮問事項に対する答申（案）についてのところで、1つ目がア小規模校のあり方である。

会長 それではここからは、諮問項目ごとに整理していかなければならない。まず小規模校のあり方についてであるが、複式学級のある美川小学校、今福小学校、波佐小学校、弥栄小学校、岡見小学校の5校については、適正規模という点で課題はあるが、地域性や校舎の耐用年数、通学条件等を考慮し、美川小学校を除く4校については今回の10年間の計画の中では、審議対象外とするということであったと思うが、このことについても確認をさせていただく。この内容で良いか。

各委員 全会一致で承認

会長 それから2点目、通学条件、学校施設の更新、地理的要因や地域の事情を踏まえた小・中学校の配置及び通学区域の見直しについてである。

1つ目は、3点目の建設計画と重なるが、雲雀丘小学校の原井小学校への統廃合、それに伴う通学区域の変更としたことであったが、このことについても確認したいところである。

先ほど話があった様に、第四中学校については第三中学校への統合、通学区域の変更についても色々な問題が出ると思うが、このことについても確認させていただきたいと思う。

事務局 統合に伴って雲雀丘小学校が原井小学校に入ってくることでより校区が変わる。同様に、第四中学校も第三中学校区に入ることの確認という意味である。

委員 通学するのにバスは出るのか。

事務局 今後、地元要望を含めて通学バスになるのか路線バスを利用するのか協議をしていく。

事務局 今後の流れとしては、答申を受けて教育委員会で学校の建設計画を作る。作る時に当然、地元の方に説明をしながら意見を伺う。その時に地元要望という形で出てくるのではと思う。

委員 それなら良い。第四中学校から第三中学校はかなり遠くなる。

会 長	<p>ご了解をいただいたところである。</p> <p>2つ目は、同一小学校の児童は、同一中学校への進学とするという考え方の原則の部分である。第二中学校を現地建て替えとしたが、この考え方の原則に基づけば、紺屋町を第二中学校区への変更とする、または原則はあるが、現行通り第一中学校区のままとするということについて、皆さんに協議いただきたいと思う。</p>
事務局	<p>事務局がこの様なことを言うてはならないが、学校自体は松原小学校も第二中学校も第一中学校も、今回場所は変わらないという方向付けをしていただいた。そうすると学校の場所も変わらないのに、校区だけを変えとなると、その説明がしにくいところがある。原則がありながら言うのはおかしいが、そういったことも協議いただきたい。</p>
会 長 事務局	<p>いただいた資料の中にあつたか。</p> <p>前回配付した資料 2-4 の 1 番下がちょうど切れかけているが、そこが紺屋町である。ちょうど切れたところで申し訳ない。浜田市役所裏にある浜田川の対岸である。</p>
事務局 事務局	<p>制服のカタイなどがある通りである。</p> <p>第二中学校が市役所北分庁舎の位置にあつた頃から、紺屋町は第一中学校に行っている。</p> <p>紺屋町の西側にある新町、錦町も第二中学校である。紺屋町の東側の牛市町は第一中学校である。紺屋町のところで線が引かれている。</p>
委 員	<p>半分から紺屋町、半分から天満町である。不思議なところである。昔は朝日町の子どもと杉戸町の子どもが入れ違っていた。</p>
事務局	<p>今はない。杉戸町は石見小学校に行っていた。</p>
委 員	<p>結局人数のバランスが悪いので、校区を変えたいのか。</p>
事務局	<p>原則の考え方でいくと同じ小学校の児童は同じ中学校に行くということで、原井小学校に通う紺屋町の児童は、他の児童と同様に第二中学校に行くというスタンスである。原則にこだわらないのであれば、今のままということである。</p>
委 員	<p>第 2 回の資料 2-2 を見ると、紺屋町から来年は 4 人、再来年は 0 人、その次も 0 人、その次は 1 人、その次も 1 人が第一中学校へ行くという感じである。</p>
委 員	<p>長い歴史の中でずっとそれが続いてきていた。変えないといけないのか。</p>
事務局	<p>それはない。教育委員会のスタンスとしては同じ小学校は同じ中</p>

学校に行くということである。学校の建て替えがあった時の方が校区を変えやすいのは間違いない。

委員 保護者の方から、どうしてここだけ外すのか、同じ中学校に行かせたいという声があるのか。

事務局 詳しい資料を持ち合わせてないが、年によって人数も違い、男女の割合も違ったりして、ここに限らずそういう声がないこともないが、校区外の申請をする時には理由を挙げてもらっており、友達が行くからという理由については該当事由にない。放課後の保護者の勤務、そこからの状況をトータルで考えた結果認めるというケースがないわけではない。

委員 私が伺いたかったのは、今の校区の状況について市民の方から、一緒にしてほしい、こういうふうに整理してほしいという要望があったのかということである。

事務局 町内としてはないが、個別にはある。それを全部聞くと大変であるし、逆の場合もある。第一中学校に行きたかった生徒がいた場合、第二中学校に変えたときに何故かということになる。

委員 現状では、個人の意見は色々あるかもしれないがこの線の通りで強制的に行ってもらっているのか。

事務局 そうである。

委員 伝統があるのかもしれない。

委員 大きな理由はないが、前例がそうであるからそうしているのかもしれない。

事務局 推測かもしれないが、第一中学校から浜田高校が近いということもあり、もちろん第二中学校から浜田高校に行く生徒もいるが、第一中学校から行く生徒が多い。そういったことが昔あったのかと思う。

委員 私も聞いたことがある。第一中学校から浜田高校へ行くパーセンテージが高いと聞いた。

事務局 今は聞かないが。

委員 校区は変えにくいと思う。

委員 この議論が出た時に、ずっと前から紺屋町は一中校区で、ここだけ原則が変わっているという話になっているが、原則を曲げるのであれば何かはっきりした理由があればよいのだが。

会長 今2案について検討いただいた。紺屋町については、現行通り第一中学校区のままとすることよろしいか。

各委員 全会一致で承認

会 長

次に、松原小学校の校区について意見をいただきたい。1つ目は松原小学校全部を第一中学校区とするという案。2つ目は松原小学校全部を第二中学校区とするという案。それから3つ目は外ノ浦町、松原町、殿町を原井小学校区とし第二中学校区のままとする案。4つ目は原則はあるが現行通りとするという4つの案がある。

事務局から少し説明をお願いします。

事務局

前回、先ほどの資料2-4の地図を見ていただいたが、現在外ノ浦町、松原町、殿町が松原小学校区で第二中学校区に行っている。実際、原則をベースに考えた場合には、松原小学校がまるごと第一中学校区へ行く、もしくは第二中学校区へ行くということが原則に基づいたものになる。

それからもう1つの方法としては、この外ノ浦町、松原町、殿町を原井小学校の校区に切り替えたうえで第二中学校区にするという方法がある。原則にこだわると、その3つの方法しかないのかと思う。4つ目は、学校の場所も変わらない状況の中では校区を見直すことは難しい、必要ないという考え方である。可能性としてはこの4つしかないのかというところである。

前回の時も、何人かの委員から原則にこだわる必要があるのかという声があった。こだわりたい気持ちはあるが、それが絶対に必須であるということではない。

会 長

事務局から説明があった。4案について話があったが、意見をいただきたい。

委 員

校舎が今の市役所北分庁舎の場所が変わった時に、校区は変わっていないのか。

事務局

変わっていない。

委 員

元々この場所に校舎があった時に作られた校区が変えられていないために、今の複雑な校区になっている。

事務局

ここに第二中学校があった時にも第二中学校の校区は変わっていない。

委 員

その時に変えておいてくれたら良かった。

事務局

殿町からの距離で考えると第二中学校より第一中学校が近い。

事務局

若干第一中学校が近いくらいである。今の第二中学校が建った時にすごく遠くなるということはない。市役所から第二中学校まで2.5キロメートルくらいであるため、そんなに大きく変わっていないので校区も変わっていない。松原小学校区については変わっている。

事務局 ここから第一中学校が1.5キロメートル、第二中学校までが2.7  
キロメートルである。そんなに大きな差ではない。

委員 先ほどの、第一中学校と第二中学校の場所が変わらないのに校区  
を変えるという理由があった方が良いとの話について、元々の校区  
を旧校舎の場所に合わせて作っていて、それがそのままになってい  
たため、今回の審議会で議題に挙がって変更することにしたという  
ことではどうか。

事務局 それは理由として成り立つ。

委員 変更する場合はそういった説明ができると思う。

事務局 田町や朝日町は元々松原小学校で第一中学校に行っているので、  
松原小自体が元々分かれている。さらにそれに浅井町が入ってくる  
ことで、浅井町の一部も松原小学校の校区になり、人数も段々第一  
中学校の方が多くなっている。おそらく昔は第二中学校の方が多か  
ったと思われる。

事務局 松原小学校が今の場所にある限りは、浅井町が石見小学校と松原  
小学校に分かれて通学しているところは、今はどうしようもないと  
思う。

委員 緑ヶ丘団地は真っ二つに分かれている。

事務局 県立武道館の駐車場は黒川町であるが道路は浅井町であるため、  
石見小学校まで数百メートルしかない。浅井町の子どもは松原小学  
校にということになると、相当な距離になる。そのため線路で区切  
り、浅井町の南側は石見小学校、北側は松原小学校ということにな  
っている様である。学校の場所が変わらないということであるの  
で、中々校区を変えにくいのが現実かと思う。

会長 今、校区について協議いただいているわけである。松原小学校区  
の全部を第一中学校区とするか、あるいは全部を第二中学校区とす  
るか、あるいは外ノ浦町、松原町、殿町を原井小学校区として第二  
中学校区へとするかまた原則はあるが現状のままとするかの4つの  
案である。

委員 皆様いかがか。

事務局 今のところ保護者から意見も何もないということであるが、原則  
でこのたび変更したということになると、保護者の間で問題になっ  
て色々言われることにならないか。

事務局 今回6校についての協議であったが、松原小学校をどうするかと  
いう問題も含めていたので、松原小学校が石見小学校と原井小学校  
に分かれるということになった時には、松原小学校区の見直しをし

	なければならぬということもあり、統合とセットという考え方でいた。
委員	急いで変えない方がよいのではないかと思います。
委員	難しい課題が発生しているのなら考えなければならぬが。
委員	学校を建て替えるとか、場所を移転するという時に、改めて考え直せばよいのでは。きっかけがないと、何でやったのかということになる。
会長	色々と意見が出る中ではあるが、原則はあるが現行通りでいくということが良いか。
各委員	全会一致で承認
会長	ありがとうございました。 最後の3点目である。小・中学校の建設計画の基本方針についてである。建築後40年を経過している10の学校のうち、地域性などを考慮することとした、雲城小学校、今福小学校、金城中学校、弥栄中学校を除く6校について審議したわけである。建て替えは石見小学校と美川小学校と第二中学校の3校、統廃合は雲雀丘小学校の原井小学校への統合、第四中学校は第三中学校へ統合ということであるが、これらについて再度確認する。今まで協議していただいた内容で良いか。
各委員	全会一致で承認
会長	ありがとうございます。了解いただいたものと認める。 今回の審議会においては、浜田自治区の学校について絞っての審議であった。これから作成する答申書においては、浜田市全体の内容も触れなければならないと思っている。 付帯意見として、更には今後の課題として、浜田自治区以外の4自治区の今後の統廃合についても検討が必要であるとした内容を記載すべきものと思うわけであるが、このことについても皆様に意見をいただきたいと思っている。いかがか。
委員	浜田自治区以外の付帯意見の案があるのか。
事務局	案というか、このままでいくと答申書は浜田自治区のものだけになってしまうので、浜田市全部のことを議論したという答申書でなければいけないと思っている。 議論したが今回の審議では対象外とした学校も、今後はまた含めて検討していかねばいけないということ載せるということである。
委員	具体的な案があるわけではないのか。

事務局	具体的ではなく、今回除いた部分も検討材料であるということである。
会長 事務局	今後の課題としてということである。 それによって、全く触れていない訳ではないという様な形を残すことができる。例えば子どもがどんどん減ってきて、1桁になったということがあった場合など、10年後の次の審議会の時には検討しなければならない項目として挙がってくる。
会長	事務局からも話があった様に、一応、今後の課題として検討が必要であるという項目を入れるということであるが、良いか。
各委員 事務局	全会一致で承認 建設計画であるが、これまで予算的な話をさせていただく中で、10年間の計画の中では2校の建替えが限度という話をさせてもらっている。今、美川小学校と石見小学校と第二中学校という3つの学校が出てきているので、教育委員会として10年間で3校ということになると、財政との協議にもなってくるが、どういう順番で入れ込むかということを決めていかなければならない。この審議会の中でこの学校を何番目にと意見があれば伺っておきたい。なければあとは教育委員会に任せるといふことなのか、意見をお聞きしたい。
委員 委員	改築の緊急性が一番高いところはどこか。 老朽化が最も進んでいるのはどれか。第二中学校は劣化ということであったので、他よりは少し遅らせることができるのでは。
事務局 委員	老朽化で言えば、美川小学校も石見小学校も老朽化している。 それなら石見小学校が一番人数が多いので、影響を受ける子どもの数と老朽化の程度から石見小学校の建て替えの緊急性が高いかと思う。
事務局	石見小学校については土地の問題についての宿題があるため、一番にできるかということとどうかということはある。
委員	この期間での優先度であり、実際の計画としてどこから着手するのかというのは別の話であると思う。
委員	審議会の要望では1番目に石見小学校、2番目に美川小学校、3番目に第二中学校ということの良いのではないか。
委員 事務局	美川小学校が一番古い。 おそらく第二中学校が3番目というのは一致した意見であると思う。2番目が石見小学校か、美川小学校かということである。
委員	第四中学校の統合が決まれば、美川小学校を改築する、それがベ



- 事務局 ストであると思う。
- 事務局 第四中学校が整備できれば、そこに美川小学校が建てられる。石見小学校は土地が確保できればそこに建てられるということなので、どちらもそれなりに条件がある。
- 委員 ここで決めても土地の問題もあるため前後することはある。やはり、建設するための環境が整ったところから建て替え、ということではどうか。
- 事務局 10年の中では、石見小学校か美川小学校でということ、第二中学校については10年の中に入れられればいいが、入れられなかった場合には、松原小学校同様、次期計画の中というニュアンスになる。
- 会長  
事務局 優先順位であるが、1番目が石見小学校か。
- 委員 今の話では両方とも1番という感じである。条件が整った方からということであるなら。
- 委員 先ほど委員が言われた様に、どちらが先に土地を構えられるか分からないし、第四中学校区の方が早いか遅いかも分からない。審議会としての意見ということで順位を出さなくてはならない。どちらも1番なら検討したことにならない。
- 委員 これから教育委員会で色々検討していく中では、美川小学校を先に考えるとか、石見小学校を先に考えるとかではなく、美川小学校と石見小学校がこの10年の計画の中に含まれるということであれば、両方スタートラインは一緒に、早く進行した方を先にするという形になるのか、それとも教育委員会の中で両方同じ様な状況ということであれば、どちらか片方を優先的に話を進めていくのか。
- 委員 条件として土地が見つからなかったらできないのが現実であるから、一応、審議会としての希望はこうであるということを決めておくしかない。他の委員が言われる様に、影響する人数が非常に多いという学校を先にしなければならぬということがある。その中で、土地を探しているがどうしても良いところがない、美川小学校は地元も一緒になって、第四中学校が統合となって候補地も決まってそろそろいくということになれば、審議会での決定が変更になってもそれは良いのではないか。10年先に変更するというわけではないのであるから。3番目は第二中学校になってくる。
- 委員 1番目、2番目と決めているが、極端な話、こちらを先にしようという話で進めていて、中々こちらが進まないのに、2番目はスムーズに進むかもしれないが1番目の難しいところをいつまでも足踏

事務局	みしているよりか、両方を同時に検討しておいて、スムーズに進み そうな方を優先的にする方が 10 年の中でスムーズに物事が進むの ではないかと思う。
事務局	表現の仕方であると思う。「可能であれば、こちらを先にやる方 が望ましいと考える。」という様な表現にしていただけると、柔軟 に対応できる。
委員	基本的な考え方は、先ほど他の委員が言われた様に影響力の大き なところを優先的にということがあると思う。それにこだわって 中々前に進まないのにずっとそれに関わっているというのも、後が つかえてくると思う。
会長	色々と意見が出ている。10年間の計画の中で進めていくというこ とであるが、色々な問題が出てくると思う。事務局の方で優先順位 はそれぞれの意見をまとめてもらうということで良いか。
各委員	全会一致で承認

### 3 その他

会長	ありがとうございます。それでは色々と協議いただいたが、今後 これまでの協議の内容をまとめて答申書の作成にかからなくては ならない。事務局から今後の予定をお願いする。
事務局	前回、最後に申したが、今後、この審議会の結論を受けて、まず 事務局で答申の素案を作る。素案を基に会長と素案から案に引き上 げる内容の整理を行ったうえで、再度委員方にお集まりいただき、 それについて審議いただくという形が最後の会になる。これから中 身を作るため、その調整が1か月では難しいと思う。素案ができ、 案の調整が終わった段階で一度送らせてもらい、しっかりと見てい いただき、ここはこうした方が良いということ踏まえたうえで集ま って審議していただく、という流れが一番良いかと思っている。日 程等については案ができた後に連絡をさせていただきたいと思う ので、よろしくをお願いします。
会長	前回第4回の議事録であるが、2週間しか間がなかったのででき ていない。申し訳ない。今回の議事録と併せて送らせていただくの でよろしくをお願いします。
会長	事務局から今後の予定について話があった。数回にわたり審議い いただいたわけであるが、これまで確認した色々な事項については、 答申書の内容に記載させていただきたいと思っている。また答申書 の案ができれば、事前に各委員に送付し、内容を確認いただく。そ

事務局

して、審議会の最終的な答申書とするという運びになると思う。よろしく願います。

これまで皆様方にはこの様な難しい審議内容に議論を尽くしていただき、今日、方向性を出していただいたことに非常に感謝している。最終的に答申内容について事務的なことが残っているが、皆様方のご協力にお礼を申し上げたい。

会長

今、事務局からあった様に、この様な大きな問題を審議会で協議いただけてきたわけであるが、今日、大筋の方向性を確認させていただいたところである。いよいよ答申書作成に入る。繰り返しになるが、答申書案が出来た段階でまたしっかりと見ていただき、これで良い、ということになればそれでまとめさせていただきたいと思う。

大変長い間ご協議いただき、ありがとうございました。